事業完了報告書

提出日：　2023 年　3 月　29 日

1．事業概要

（1）実行団体名：一般社団法人 aichikara
（2）事業名　：　山村地域における若者の体験学習と継続的な交流の場の創出
（3）事業実施期間：2020 年 4 月～2023 年 3 月
（4）資金分配団体名：一般財団法人中部圏地域創造ファンド

2. 規程類の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑　完了　／　☐　整備中
→上記で「整備中」を選択した場合、整備できていない理由を記載してください。また、事業開始時と比較して、整備状況が改善された点を記載してください。
（2）　整備が完了した規程類を自団体の web サイト上で広く一般公開していますか。
☒　全て公開した　／　☐　一部未公開　／　☐　未公開
→上記で「一部未公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。
（3）　変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☑　変更があり報告済　／　☐　変更があったが未報告　／　☐　変更はなかった
→上記で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。

3. ガバナンス・コンプライアンス体制の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）　社員総会または評議員会、理事会は、規程類の定めるとおりに開催されていますか。
☑　はい　／　☐　いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（2）　内部通報制度は整備されていますか。
☑　はい　／　☐　いいえ
→上記で「はい」を選択した場合、設置方法を以下から選んでください。（複数選択可） ☑　内部に窓口を設置 ／　☐　外部に窓口を設置 ／　☑　JANPIA の窓口を利用

（3） 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（4） 関連する規程類や資金提供契約の定めるとおりに情報公開を行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（5） コンプライアンス責任者を設置していましたか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（6） ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化施策を検討・実施しましたか。
☐ はい ／ ☑ いいえ
→【任意】上記で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。
（7） 団体の決算書類に対する会計監査はどのように実施しましたか。本事業の最終年度の状況を選択してください。（実施予定の場合を含む）
☐ 外部監査 ／ ☑ 内部監査 ※（複数選択可）
→上記で外部監査／内部監査を選択した場合、その実施者/実施時期を記載してください。 当団体の監事が毎年度、定時社員総会の開催前（5 月頃）に実施。
（8） 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。
☐ はい ／ ☑ いいえ

4. 広報実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、設問に回答してください。

（1）シンボルマークの活用状況
☐ 自団体のウェブサイトで表示している ／ ☑ 広報制作物に表示している ☑ 報告書に表示している ／ ☐ イベント実施時に表示している ☐ その他 →「その他」を選択した場合は記載してください （自由記述）：

最終年度の広報実績について記載してください。

広報種類	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）	有	まぜ草刈りフォトコンテスト準グランプリ（https://maze-park.or.jp/草刈りフォトコンテスト２０２２結果発表/）
広報制作物等	有	企画参加者募集チラシ（4 本）

報告書等	有	SNS への活動報告投稿 instagram：https://www.instagram.com/aichikara.gia/ facebook：https://www.facebook.com/aichikara.gia/

5. その他（本助成を通じて組織として強化された事項や新たに認識した課題、今後の対応/あればよいと思う支援や改善を求めたい事項など、自由にご記載ください。）

4 団体で取り組む形だったため、定期的に話し合い、各団体の持ちうる大小さまざまなリソースを活用し合いながら事業を進めることとなり、連携が強化された。

【添付資料】

活動の様子がわかる写真　5 枚程度

JANPIA の事業報告書や WEB サイト、SNS 等で公開可能な写真を 5 枚程度（1 枚 2MB 以下）ご提出ください。（肖像権・著作権に十分にご注意ください。）

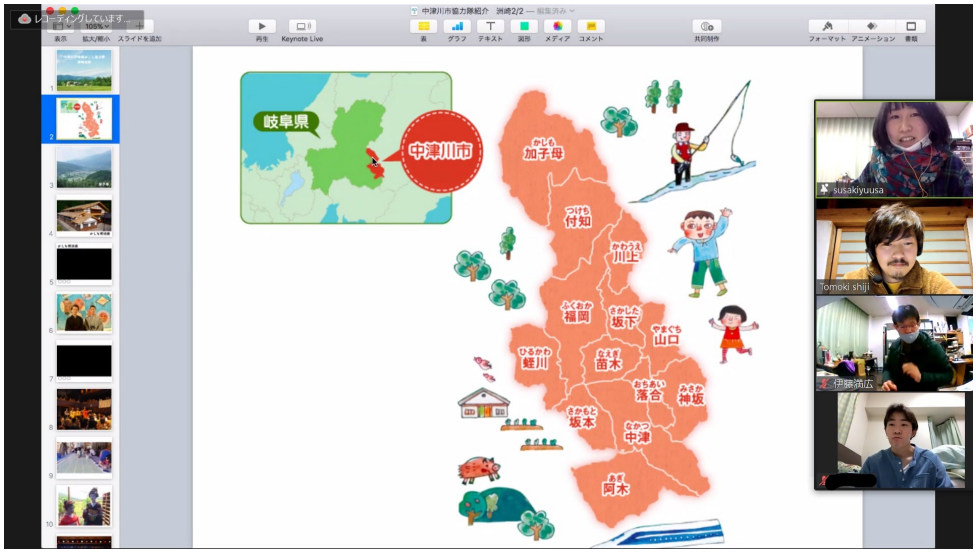
それぞれどんな場面の写真なのか、1 枚あたり 50 字から 200 字程度で説明を記載していただきますようお願いいたします。

※ご提出をもって JANPIA での使用にご了承いただいたこととし、使用時に改めて確認はいたしませんので、ご承知のうえ、使用に差支えのない写真（使用許可をとった写真や個人が特定される写真を避ける等）を選んでいただきますようお願いいたします。

「山村地域における若者の体験学習と継続的な交流の場の創出」事業　活動の様子

①学生に地域を知ってもらうオンライン活動

新型コロナウイルスの影響により地域に学生を受け入れての活動を計画的に行うことが難しくなったため、地域の方々にご協力いただき、加子母や馬瀬について知ってもらうためのオンライン活動を実施。滞在できない期間にも学生に地域の情報を発信し、関心を高めることができました。



②大川小学校 未来をひらくプロジェクト

地域での対面の活動が困難な状況が続く中、加子母の子ども達と工務店を巻き込んだ東北被災地の校歌額再生プロジェクトを展開。参加した児童生徒一人ひとりが彫った文字板を、加子母の工務店で校歌額に仕上げ、大川小ご遺族へ贈りました。特に加子母小 5 年生には東日本大震災の教訓を学ぶ機会とともに、地元の工務店や地域の銘木東濃ひのきと関わる特別な体験を提供できました。

新聞　2021年（令和3年）3月6日 土曜日

大川小の校歌額 再生

2011年の東日本大震災の津波で児童ら84人が犠牲になった宮城県石巻市の大川小学校に残る破損した校歌額を再生するプロジェクトで、遺族らでつくる「大川伝承の会」に寄贈する校歌額が完成した。5日は歌詞の文字板を彫った中津川市加子母の加子母小学校5年生14人に披露され、児童が津波で亡くなった同年代に思いを寄せた。（青山和史）

加子母小など全国8校が協力

3.11 岐阜から

石巻市立大川小学校校歌
未来をひらく
作詞 作曲 宮田 増戸 道雄 博

プロジェクトは多くの犠牲者が二度と出ないことを願い、被災地支援に取り組む名古屋市の一般社団法人「aichikara（あいちから）」が企画した。文字板の制作などには同校を含めて愛知、愛媛、神奈川、茨城の小中高校8校が参加。加子母小は同法人が福島県の子どもを招いたキャンプを加子母地区で行っている縁で加わった。校歌額は縦約1・7メートル、横約2・4メートル。昨年末から1カ月かけて9センチ角のカツラの板に歌詞の1文字を彫り、裏面には自分の名前と将来の夢を書き込んだ。

校歌額の組み上げには地元の中島工務店が協力。額縁には東濃桧を使い、桜の花びら形をした組子細工を飾り付けた。黒く塗った文字はきれいに浮き出ており、文字がない板の表面も丁寧に彫られている。

児童はこの日、組み上げが行われた協同組合東濃ひのきの家の工場を訪れ、完成した校歌額を見学した。同法人の石原杏莉代表（37）は「多くの人が込めた気持ちを大切にして遺族の皆さんに届けたい」と協力に感謝した。田口結さん（11）は「亡くなった人のために夢をかなえたい」と話した。

石巻市によると、新年度から震災遺構として旧校舎を公開できるように整備工事を進めており、校歌額の展示を検討している。

中島工務店制作仕上げ　亡くなった同年代 思う

完成した大川小学校の校歌額を見学する児童＝中津川市加子母、協同組合東濃ひのきの家

③４団体合同での草刈り支援活動

事業前調査の段階からニーズが高かった馬瀬での草刈り支援活動を、馬瀬川プロデュースを中心とした４団体合同で実施。初めて刈払機を持つ学生もすぐに慣れ、若い力で長年放置された背の高い草があっという間に刈られていきました。活動後は、朴葉寿司を食べたり馬瀬川に飛び込んだりしながら参加者同士交流しました。

④農業体験を中心とした地域滞在プログラム

地域の農家の方にご協力いただき、学生向け地域滞在プログラムを実施。農作物の収獲作業等に参加させていただきながら、農業への理解を深めるとともに、移住や新規就農の体験を伺うなどし、自身のライフスタイルやキャリア観を考えるきっかけとしました。写真はトマトの苗について説明を受けている場面。

⑤自然体験施設での活動を中心とした地域滞在プログラム

馬瀬の自然体験施設「フィッシングセンター 水辺の館」で夏季に行われる子供向け「あまごの掴み取り体験」のサポートを主とした学生向け地域滞在プログラムを実施。写真は体験用のあまごを用意している場面。当施設は夏の間多くの観光客が訪れるため、地域内からも地域おこし協力隊はじめ様々な人が出入りし、学生にとって刺激的な交流の場となっていました。

以上